愛國婦人會機關

# 愛國婦人

毎月十日廿五日發行

(定價)一枚參錢　一ヶ月分六錢　三ヶ月分拾八錢　半年分參拾六錢　壹ヶ年分七拾貳錢　全國無遞送料　郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割増

廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地　大日本女學會內　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

## ◎故參謀次長田村中將の家庭

相談役　步兵少佐　堀內文治郎

左の一篇は、堀內相談役が物せられたる談話の要領なり。校閲を經る暇なかりしかば、其意をつくさゞる所もあらん、讀者之を諒せられよ

◉家庭の質素　役に立たないものを買ふ程不廉なものはないといふが、將軍は質素を貴ばれる方であッて、必要缺くべからざる品物の外、決して購はれた事はない。家に別段の裝飾品と云ふものはない。家庭に在ッては、最も簡單な生活を採られてあッて、家は馬車も通らぬ四谷の細い横町の陰氣な處で、門は破れ疊も汚れて居ると云ふ有樣であるが、將軍の書齋に入ッて見ると驚く程東西古今の大切な書物を集めてあッて、將軍は此書齋の中で孜々汲々として勉強して居られた。現時我が陸軍で戰時平時に於ける種々有益な勤務書は、此書齋で認められたものである。

◉夫人の援助　事を成し遂げるものゝ後ろには必ず婦人の援助があります。將軍の夫人は山梨縣の人早川七良氏の長女で、名は傳子と申され、將軍に嫁せられて女兒五人、男兒一人をあげられました、長女と次女とは他家に嫁入せられ、あとに三人の娘と末子の長男(三十一年生)とが今尚家に居られるが、夫人は最も嚴肅の人であッて、家庭の用務を一身に引受け、夫をして後顧の憂なく働かしめて居られた。將軍は勤勉な人であッて、日曜でも祭日でも、朝は一番早く夕は六七時頃迄參謀本部で事務を視られ、死ぬる前日迄寢床の上で公用書類を處理された程であッて、自分に向ッて申されたには『己は夜でも晝でも職務を思ふ外別に心を勞する事はない、それで己は忠實に國家に盡す一人て、此の點だけは人に讓らないと自ら信じて居る』と語られた程で、職務を專心に盡されるために、家庭の事にまで力が及ばぬから、家の事は顧はない方であッたが、夫人が內を守ッて、夫をして少しも內の事に思ひを費さしめず、夫をして成功せしめたのは全く夫人の力であります。

◉將軍死去後の夫人　將軍が臨終の際に於ける擧動は最もよく將軍の將軍たる所以を顯はして居ッて、將軍の死去されたのは、二時五分前であッたが、恰度十二時頃夫人が今度は所詮むづかしいと云ふ事を將軍に告げると、將軍は別に驚きもせず、靜に先刻來懇篤に看護して居られた寺內陸軍大臣を顧みて嫣然一笑『國家の爲め閣下の健康を祈る』と、此世の別れを述べ、更に夫人に一二遺言をして、寢てやすく〳〵と永き眠りに就かれたが、其從容迫らず、泰然として簀を易へられた樣は名僧高衲も、よもや斯く迄にはと思はれて、居合した一同ヒドク感心した。後に澤山の頑是無い子供を殘して行くのに斯くも未練の無い往生は、平生の覺悟が旣と定まッて居ッたからでありませう。殊に瞑目後夫人が毅然として後事を處理せられる處は、流石に將軍の未亡人たるに恥ぢずと一同感服した事です。

## ◎家庭と學校とに就いて

女子高等師範學校教授　安井てつ子

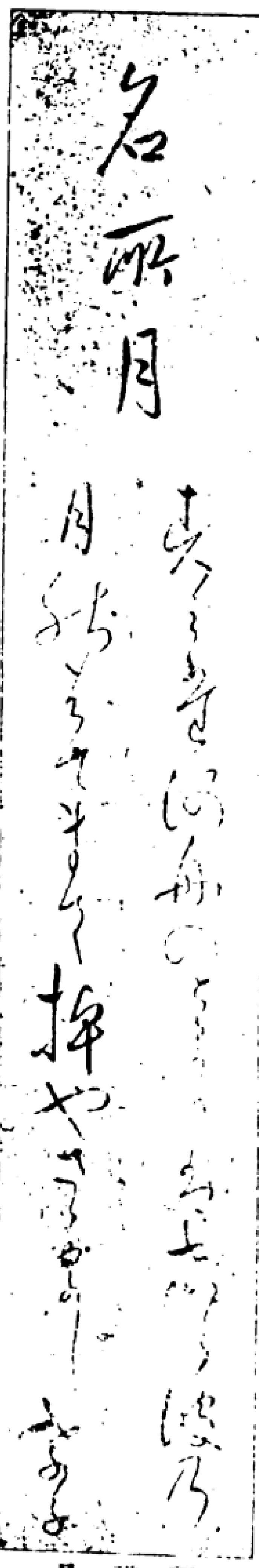
左の一篇は此程女子高等實修學校にてものせられたる演說の要旨なり文字の責は記者にあり。

◉人の三生活　人の一代には三つの生活があッて、第一は家庭の生活、第二は學校の生活、第三は社會の生活と此三通りがある。そこで家庭の生活と學校の生活と世の中へ出て働く社會の生活とは皆別々に孤立して行くものであるか、又は結び付かなくてはならぬものであるかと云ふに、家庭から社會までは一貫した精神があッて聯絡がなくてはならぬ。家庭は只食事をする爲の場處や寢る爲の場處のみではない。宿屋とは異ッて家庭は即ち小なる社會で、將來世の中に働く時の準備を此處でせねばならぬ。

◉家庭の生活　吾々人間は父母の側に付いて居るが、犬猫類は早く親の側を離れて獨立する。此點から見ると人間は意氣地がない樣であるが、其處が鳥や獸と異ッて、人間が万物の長たる所以である。若も人間が生れてから直に獨りで食べることが出來れば、私共人間は然程えらくはならぬのであるが、幸にして丁年までも親の側に居るによッて、人間らしくなるのである。即ち家庭の內の出來事は子供の上に大變な感化を與へるもので、家庭は恰も溫かい春の日和の如く愛情が充ち滿ちて吾々の心を和げる。其愛情を世に出て後自分の周圍の人に施すによッて人間の交際が出來ます。即ち家庭に於ける修養が社會的生活をする上に於ての基礎となるのである。

◉命令服從の精神　又子が親の命令に服從すると云ふ事は單に親の意見を立てる爲ばかりではない、自分の爲す事が善いやら惡いやら判斷が付かぬから、是非とも兩親に聞いて處置せねばならぬからである。家庭に在つて親に絕對的服從する觀念は學校にまで及し、敎師の命令に服從する基を作り、又社會に出ては社會の法に服從する觀念を作る基である。故に親たるものは何故に自分の子を自分の命令に從はしめるかと云ふ意味を十分に了解して居ッて子を育てねばならぬ。一言の小言を云ふにも其精神は大變遠い處にある。又子供の方でも之に服從する所以は立派な人間となッて世の中に獨立する稽古をする積りて服從せねばならぬ。

◉品性は家庭にて修養せらる　子供は玩具を弄ぶが自分の玩具は自分で處置しなければならぬ。其の始末の出來ぬやうな子供ならば、女では家を治めて行く時に、やはり家を整理することが出來ず、男の子なれば會社などへ出ても　其の長となッて治めて往く事が出來ない。つまり何事も小な事から大な事に及すが順序である。又一家のものが相集まッて一緒に食事をするは唯腹が空ッたから食べると云ふことでない、一緒になッて樂しく話をしながら親子が顏を合せて食事する間には言ふに言はれない敎育になる所がある。然るに然樣な深い考へもなく親子勝手〳〵に食事をなせば、團欒と云ふ事がなくなッて仕舞ふ。食事の時に主人が缺ければ他の一同が待ッて迷惑する。社會に於て交際するのも同じ事で、一人が遲るれば多數の人が迷惑するから、互に便利を計りあふ精神で注意せねばならぬ。即ち一家の內の修養は世の中に出て生活するに入用な事柄ばかりであッて、其基が家庭で出來ることになる。つまり家庭は子供の品性を造る所の一番良い場處である。(未完)



評議員　侯爵夫人伊達幸子筆

田村參謀次長の卒去を悼みて

相談役　陸軍步兵少佐　堀內文次郎

はらからを失ひしにも增すかゝみ
　影たにとめぬ君そかなしき

夏の頃那須野原なる乃木中將の別莊を訪つれしに其前栽に淸泉の滾々として湧き出るを見て

湧く水も主のこゝろに似たりけり
　うきよの外に淸くすゝしく

古寺萩

とふ人もたえてひさしきふる寺に
　つゆをむすへる糸萩のはな

田村參謀次長の十日祭に列して

北風の吹きすさふ日はことさらに
　逝きにし君の偲はるゝかな

きのふまてをさと仰きし君はけふ
　何地にますか便りたになし

田家萩

理事　公爵夫人　近衞貞子

秋の田のみのりも見ゆる賤かやの
　かきねたわゝに萩の花さく

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には評議員塚本留子同仁杉歌子及び幹事西鄕てる子の肖像を掲ぐ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 論説

### ◎大日本女子教育會について

文學士　下田次郎氏談話

●女子の教育　私共女子教育に從事するものが集ッて大日本女子教育會といふを立てた。其旨趣は、元來我國の教育は維新以來長足の進歩をしたけれども、主として男子の教育であッて、女子の教育は殆ど顧みぬ有樣であッた。是は獨り日本のみではない、何れの國でも男子に勝手な掟が女子を支配し、女子は何かにつけて後廻し除け物とせられるからである。又男子は社會の表面に立ち働くから、教育の効果が覿面に顯はれるけれども女子の働きは裏面にあッて引立たぬので女子の教育は仕甲斐がないやうに見えるからである。然し女子は國家に對して此の如く微弱な力を有て居るものではない。女子の生まざる男子なく、母の名に抵抗する豪傑なく妻に影響せられぬ夫なきを見れば、女子の勢力は然樣に薄弱なものでないとが分る。母の氣質は子の乳と共に吸ひ取られ、冥々の裡に大勢力となッて男子を支配するものである。故に國家の隆盛を期し社會の改良を計らんとするものは女子を教育せねばならぬ。即ち女子教育の進歩は文明の鏡である。

●今日の女子教育　我國の女子教育は今日非常な盛況になッて來たのは甚だ喜ぶべき事であるが、之は時候に瞞された一時の狂ひ花ではないかと窃に憂ふるのである。女子教育の根本的方針がまだ定まッて居らず、女子教育家は父兄と共に其適從する處を知らぬ程であるから今日に於てよく之を考究して其地盤を固めて置かねばならぬ。由ッて女子教育を職とするものが團結して知識經驗を交換し、研究した結果を實地に應用して、今日の女子教育の盛運を維持し、益す其發達を謀るといふ目的で此會を起したのである。

●歐米の教育會　元來職を同うし業を共にするものは其利害の關係自ら大なるもので、歐米の教育界では小學教員會、中學教員會、女子教員會など各種の團體があッて互に同心協力して斯道の發達を謀り、會員相互に便宜を與へる仕組がある。例へば雑誌の發行、教職の周旋、講習會其他學術的並に娯樂的の集會、海水浴温泉等休暇中保養所の紹介宿所の世話、旅行の便宜、文庫、集會所、合宿所、女學校の設立、教員の養成、補習、音樂の練習及び生命、養老、疾病、非常の保險貯金等會員に多くの幸福を與ふる仕組があるが、日本にはまだ斯う分立した全國の教員會がない。之はつまり教育界の缺陷であるから、社會の趨勢に鑑み卒先して此會を起したのである。

●正味の會　色々會があるけれども徒に名譽贊成員だとか云ふものを書き連ねて、社會に吹聽するのが今日の現狀である。然し實際其人々は何等の贊成の實をも擧げない。大家の名を振り翳さねば仕事が出來ないものでもなからうと思ふから吾會は正味の會に組織して、會員によッて生れ會員の自助自信に由ッて成立つ事を期し、其活動の手始めとして隔月一回に女子教育と云ふ雑誌を出して、女子教育に關する事項を研究する積りである。

### ◎南洋の婦人

龍江信義

●葬祭の奇習　金を大切にするは身躰の裝飾としてマンゲンを纏ふと云ふのも其一つであるに相違ないが、其上に最も此マンゲンが役に立つのは斯う云ふ場合である、例へば或家で主人が死んだとすると、向ふでは死者の身躰に種々の道具を巻付けるです、尤も死者が生前に所有して居つた物だけですが、其上にマンゲンを有ッたけグル〳〵に捲付けて、其前で遠近の人を招いて饗應する、其時に御馳走になる人は皆死者の身躰に巻いてあるマンゲンの數を數へる例になつて居る、デ先づ其死者に五十尋のマンゲンが巻いてあつたとする、さうすると招かれて來た土人は「隣村の旦那さんの所にはマンゲンが四十五尋しか無かつた、今までは隣村の旦那さんを會長と言つて居たが、此家の財産を調べるとマンゲンを五十尋持ッて居るから是から吾々は此方の旦那を會長と崇めんければならぬ」と言はず語らずの中に會長の權利も得られ又土人も其方に歸向するやうになる、詰りマンゲンの多少が其一家の福を計る標準となり同時に權力がそれに伴ッて付いて來る、斯う云ふ譯で土人がマンゲンを珍重することは實に非常なものである。

●女子の働き　それから男子はどう云ふことをして女子はどう云ふことをするかと云ふと自ら其仕事は分れて居る、矢張り日本と同じく一家の家政を司る者は女子であッて子供を育てるのも婦人の仕事になッて居る、併し此國では畑を耕すことも婦人の仕事になッて居ッて男子は何にも仕事をしない、實に碌々として遊んで居る例へば夫婦で山へ行くと女は畑に芋を植ゑ歸途に薪を拾ッて其上に子供の一人も載せて汗水流して歸ッて來るのに男は一物も携へずぶら〳〵して歸ッて來る、男の仕事と云へば畑でも作る時に丈夫な垣を拵へる、此邊は野豚の多い所で丈夫な垣でなければ皆畑を荒されて仕舞ふ、デ女の力では丈夫な垣は造れないからさう云ふ物は男が拵へる、其他には男の仕事と云ふ物はない、從ッて總ての仕事は女子の方が男子より發達して居つて、所に依ると船を漕ぐのに女子が大きい櫂を取ッて男は小さい櫂で漕いで居る、元來此島は人種が食人種であるだけ他の部落との戰爭が始終絶えない、そこで種々な武器を拵へることに努めて、或は竹の先きへ鳥の骨や人の骨などを付けて鎗のやうな物を拵へたり、人の骨で短刀を拵へたりする、それは大抵男の仕事になつて居る。

●子供を袋に入れて傳す　それから女子が子供の傳をするのが餘程面白いです、日本のやうに衣服を着けて居りませぬから懐ろの中へ入れるなどゝ云ふことは出來ませぬ、ちよッと他所へ行く時などは網の嚢へ紐を付けて其紐を頭の眞中に引懸けて前の方にブラリと下げて其嚢の中に子供を入れる、モウ一ッ頭の眞中から紐を下げてそれにも嚢が付いて居ッて後の方にブラ下げてある、其中には椰子とか芋とか何でも荷物を入れて歩く、それとモウ一ッ面白いのは若し婦人が愛して居つた小兒を喪つた時に、自分の乳が餘ッて居る時はそれを豚に飲ませるです、豚はノソ〳〵やッて來て人の乳を飲んで居る、之で見ても土人が豚を大切にすることが分る。

●市場の景況　それから土人間には三日に一度づゝ市場を開くのが例になッて居る、土地の平坦な人の寄易い場所で物と物との交換をする、自分の作ッた芋とか芭蕉の實とか檳榔子のやうな物を背負ッて來る、海岸に近い者は魚などを持ッて來たり何に依らず自分が市場へ持ッて行ッて交換が出來ると思ふ物は何でも持ッて來る、勿論荷物を持ッて來るのは女で商賣をするのも女である、男は只見物に來て自分の好きな者でも買ッて食ッてブラ〳〵して居る、大抵朝の九時頃から市場が始まッて午後の四時頃には全く濟んで仕舞ふ。

●身躰の不潔　それから土人の身躰は非常に不潔である、海岸の或一小部分は水浴をやりますが内地になると水浴もしない、着物も着ず天然の肌着てゴロ〳〵して居るから垢が固まッて皮膚はまるで木の皮のやうになッてベキ〳〵剝げるやうになつて居る、從ッて皮膚病が非常に多いです、癬瘡などは身躰中一杯に廣ッて居る、醫藥も何もない所であるから段々廣つて行くばかりで、殊に裸躰で居りますから親が癬瘡だらけの身躰で子供を抱くと其子供に直ぐに傳染して其子供も身躰の八九分通り癬瘡が出來る、斯う云ふ工合で皮膚病患者が非常に多いです、併し水浴をやる方の土人は立派な健全な皮膚を有して居るのが少なくありませぬ。

●土人の嗜好　それから土人は男でも女でも一般に煙草を好むです、煙草をやると何を措いても悦んで來るです、それで外國人などが土人と物を交換するとか、或は働かせるにしても金は有難くない、猫に小判で些ッとも効能がない、土人の使用するマンゲンは彼等が容易に放さない、若し無暗にマンゲンを歐洲人などに渡すと相場が崩れるから白人の使用を禁じて仕舞ッた、そこで煙草を以て土人の勞力の報酬とし又物品交換の材料にして居る、煙草も普通のものでなく縄のやうになッたステック煙草と云ふ棒のやうにした物です。

(完)

遠樹紅　　理事　侯爵夫人　鍋島榮子

をはなさく野末にあかく交れるは
はしのひともと染しなるらむ

大日本女學會隆盛をことほぎて　　評議員　中山幸子

をしへ草かすかきりなくとり〳〵に
言葉の花のうるはしきかな



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## ◎有栖川宮大妃殿下の御淑德

故有栖川大將の宮の明治維新中興に於ける文武の御功績赫々として國家の柱石たりしとは、今更絮說を要せざる所なるが、斯く偉勳を樹て給ひしは、固より大將宮の希世英器に因ると雖も、是れ併しながら、妃殿下內助の力も亦尠少ならざりきとぞ承る。大將宮の閨門の嚴肅にして能くをさまりしは、當世に稀なる所にて、或は金枝玉葉のいよ〱茂らせ給はんことを希ひて、臣下等より妾媵を献ぜんとを乞ひしも、凡て斥けさせ給ひきとぞ。是れ大將宮の高潔なる御心に基くと雖も、亦妃殿下御淑德の高きに由らずばあらず。妃殿下常に慈愛の情いみじく在し、侍女婢僕等が時に過失あるに當りても、曾つて御譴責を加へ給ふ事あらず、然れども御殿の御おきて露だにもゆるまぬのみならず、却つて殿下の御情の厚きを心衷に深く感じ、いよ〱敬意を加へ過を再びせざらんことを、自ら大に注意せり云ふ。大將宮薨去の後は、御寫眞を御居間に安置せられ、毎日新しき花と、宮の御生前にたしませ給ひし果物など供へさせられ、曾て一日も缺かせ給はず御手向遊ばされしよし。此程大將宮御銅像除幕式の時、御手づから幕の紐を取らせられ、寺內陸軍大臣が御助け申上げ、全く幕の除かるゝや、最も敬肅の御容子にて、つく〲と御銅像を見そなはし、無限の御喜びの中に、亦無量の感に打たれ給ひけん、折々御眼を拭はせ給ひければ、式に參列せる軍裝いかめしき益荒武夫すら、坐ろに感涙を催したりとぞ。

## ◎山內侯爵夫人

我會の評議員山內侯爵令夫人は、伏見宮家より御降嫁あらせられ、かねて淑德高き聞え在らせらるゝ御方樣なるが、御齡うら若くおはするにも拘らず、萬事に御心かけ行屆かせ給ひ御良人豐景侯、身を軍籍におかるれば、時々演習行軍等の事あり。其の留守中は外出に馬車を用ゐ給はざる常とす。去にし十四日、本會評議員例會の砌も、麹町七丁目なる御邸より、飯田町なる本會まで半里許の道程を婢僕二人の從者を召連れ給ひて、徒歩にて御出席あらせられぬ。會場に入らせ給ひし程御顏汗ばみ給ひぬれば、如何に遊ばされしかと、中山評議員の問ひけるに、今日は往復ともに徒歩せん心得なり。軍國多事の折柄なれば、わらはも乘車など安逸を貪るを得ず。是も軍人の妻たるものゝ嗜にこそと、答へ給ひぬ。竹の園生に人とならせ給ひしやんごとなき御身にして、斯く雄々しくも無雜作にふるまはせ給ふ事、人々の深く感ずるところにこそ。

## ◎神奈川縣知事周布公平氏が郡長會議に於て爲せし演說の大要

愛國婦人會々員募集に關しては、本年一月諸君御會同の際、懇篤依賴せしに、諸君は熱心なる同情を以て、婦女子の事業を幇助せられ、目下會員の總數は、別表の如く三千百四十二名にして、全躰に於ては曾て諸君に希望したる豫定數を超過するに至りたり。是偏に、諸君御盡力の結果にして、國家の爲深謝に堪へざる所なり。本會は、創立日尚淺きにも拘はらず、全國各支部とも、會員益々增加し、本會の基礎漸く鞏固となり、本年三月、閑院宮妃殿下總裁の任を領諾あらせられ、層一層、會務の擴張を御奬勵あらせらるゝに依り、到底現況に安んずべきの時期にあらず、自今台旨を奉躰し、尚益々進て會員の增加を企畫せざるべからず、之れが爲め、本年五月を期し總裁殿下の台臨を仰ぎ、支部發會式を兼ね、總會擧行の計畫なりしも、傳染病のため之を六月に延期せり、然るに六月に至り尚不安の虞ありしを以て、遺憾ながら秋冷の時期を待つの止を得ざるに至りたり、幸にして此末惡疫等の故障なきに於ては、春季の計畫を繼ぎ、來る十一月頃を期し、支部發會式を兼ね總會擧行の計畫なる趣に付、尚一層會員を勸誘し、會務の擴張を計り、以て總裁殿下の盛旨に副ひ奉らざるべからず。然るに本會の事業は、前途尚遼遠にして、婦女子の力のみに賴て以て、之が大成を期するは頗る至難なりとす。庶幾くは、諸君、尚一層幇助應援せられ以て、本會の發達に助力せられんことを切望の至りに堪へざるなり、且歸任の上は、現時の狀況を各幹事に傳へられ、今日の盛況を致したる勤勞を深謝し、此末尚益々會務に鞅掌盡瘁せらるゝ樣、垂示あらんことを望む。

京都府幹事　廣瀬宮子筆

## ◎母親の衛生十則

此一篇は、醫學博士三島通良氏が、女學講義中にものせられたるものなるが、極めて有益の文字なれば、こゝに收錄することゝせり

歐羅巴の諺に『婦人の健康は國家の健康なり』と云ひ、又『衛生は一家の廚房より成る』と言ふてある。是れは餘程意味の深い語であつて、實は婦人の健康程、國家に影響を大ならしむるものはない。婦人が健康であれば、其生んだ小兒も健康である、從つて國民の相續者が健康なるものとなるからして、即ち婦人の健康は國家の健康であると云ふのです。又衛生は一家の廚房より成ると云ふのは、つまり、國家衛生と云ひ、公衆衛生と云うても、其源とするところは個々の家の衛生にあるのである。故に個々の家の廚房より始めて、衛生が屆いて居らなければ、國の衛生も出來ないのである。而して其廚房を司るところの人は誰であるかと云ふに、即ち婦人である。故に一家の衛生と云ひ、又國家の衛生と云ひ、共に基くところは婦人に在る。婦人自身が健康であつて、又其家人を健康ならしむれば、夫に因つて國が自ら富强になるのである。殊に小兒を養育するには、其母親が健康であれば、あるほど小兒も强壯に育つ。之に反して母親が虛弱であるときには、小兒も亦强壯に育つことが出來ぬと云ふ次第であるからして、母親の衛生と云ふことは、婦人衛生の中でも最も緊要な事である。依つて私は哺乳兒を有つて居る母親の爲に、衛生十則と云ふものを作つた今それを下に抄錄しやうと思ふ。

第一、母親は規則だちたる劇しき用事を爲すべからず、唯其職務は哺乳兒のことを注意するにあり。

第二、食物は十分滋養分ある、柔き消化し易き物を用ひ、飲料には爽快物を選み、醱酵性又は身體に熱を發すやうなものを用ふべからず。

第三、肉類のみを食すべからず、必ず野菜・魚類等、彼物此物を取混ぜて食し、殊に澱粉質の物、米・麥・饂飩・蕎麥・葛粉・芋諸類・砂糖等を缺くべからず、尤も餘り燻焦たる物、或は鹹き物、及び酸味を食すべからず。

第四、母親は常に清潔なる空氣の中に住居し、決して密閉たる室內にのみ居るべからず。且つ日々適宜の運動をなすべし。されど舞蹈・馬乘・遠行・力業等激しき運動は爲すべからず。最も寒暑冷熱を豫防して衣服に注意すべし。

第五、乳房を大切にすべきは勿論にして、餘り堅く締め、又は壓着くべからず、且つ戸外にて胸を披くは宜しからず。

第六、母親は夜分十分の安眠を要す、晝より夜にかけ、夜より朝にかゝる如き仕事を爲すべからず。

第七、凡そ感情を動かすことを謹み、只夫婦の間の睦しきを望むべし。

第八、憤怒・驚駭・非常の喜悅・發熱などありしときは、先づ一回乳を搾り出し、而後一二時間を經ざれば小兒に哺乳せしむべからず。

第九、常に己れの健康に注意し、其强壯ならんことを望むべきは勿論なるが、若し食欲進まず、腹痛み、酸液を吐き、便秘或は下痢し、小水の色變じ、又は濃くなり、心悸劇しく、下肢に麻痺を發し、又は水腫ある等の疾病あらば、直に醫師に診察を賴むべし。

第十、母親は小兒の管理する女主なれば、其小兒に對して常に指揮者たるの位置を保つべし。假令之を大切にする目的なりとも、一回自ら奴婢の如くなる擧動を爲したらんには、己れ母親たる權利を失ひて、終に小兒の輕蔑を受け、後年之を敎育するに際して、非常の障害となるべし。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 家政

## ◎家政要領

家事衛生…飲食(つゞき)

水中の鹽類　石灰、苦土の如き鹽類を多く含有する水は有害にして、之を飲む時は胃病を起し、又石灰沈着して結石を生ずるとあり。土類を多く含める水にては石鹸溶解せず、物を洗ひても垢落ちず豆を煮て軟くならざるを見れば此類の水は宜しからざるならん。而して水の硬度は百二十度即ち凡そ吾が五斗五升の水を煮詰めて十万分の二十以下(五分)の石灰を出すものを良水とし、其以上のものは有害とす。

水中の瓦斯　水中に溶解せる瓦斯中、炭酸瓦斯は有効なれども硝酸亞硝酸アンモニア等の瓦斯を溶解するものは惡水の證なり。是れ其瓦斯の直接に身躰に有害なるにはあらざれども是等の瓦斯を溶解せる水は必ず有機物を含有すればなり。

水中の黴菌　最も注意すべきは水中の黴菌にして之は惡水中には一センチメートル(立方中に凡そ一千万を含有するとあり。近來諸處に水道の必要を説くは、是れ假令水源には多少黴菌を含有するも之を濾過したる清水を得んが爲なり。然らば黴菌は凡て恐るべきものなるかと云ふに決して然らず恐るべきものはコレラ・チピュス等の病原となるものなり。而して是等は一般の黴菌の有る處に發生し易きを以て、まづ其性の有害無害に關せず悉く之を除去せざるべからず。又水中には原始虫と稱する小虫あれども、之は水中の有機物を食するを以て却て水を清潔にすべく、恐るゝに足らず。然れども痢病マラリア熱等の原因も、し其原始虫の類ならば避けざるべからず。吾國にては健全なる人と雖腹中には多少之を有せざるはなき蛔虫其他條虫十二指腸虫等の原因も井水河水等を使用するを以てなり。

雜用水　一般に飲料水には注意すれども、雜用水には意を用ゐざる習慣あり。されども是もなるべく清潔にせざるべからず。飲食物及び食器等を不淨水にて洗ふは甚だ危險なり。撒水も亦清潔ならざる時は其不潔なる粉末蒸發して吾人の口鼻等に入り甚だ危險なり。

地水　地水を飲料とする場合には、其泉源に近きは直ちに汲みて之を飲み、泉源高處にあれば竹又は木の筧を用ゐ自然の勾配によりて之を汲取るなり、何れも其水清潔ならば簡單にして良き方法なり。然れども竹木の筧は共に腐敗し易く從ッて不潔物を混入す。土管は冬季は凍破するのみならず、壓力の爲に弱き部分の破裂するとあり、又其面粗造なるを以て虫類水垢等附着して宜しからず。最良なるは鐵管にして、殊に其内部に釉藥又は琺瑯(アール)を塗りて腐敗を防ぎたるものなり。

井戸水　水道なき處にては普通井戸水を飲用す。而して淺層の水質(中水)清潔ならば可なれども、然らざる時は深き處より汲み出さゞるべからず。此時には周邊より惡水の滲入を避くる爲に井戸側をいれさるべからず。流しも亦清潔ならざるべからず、若し不潔なるか或は勾配惡しき時は汚水の井中に逆流する恐あり。井中に雨水其他落葉等の入るを防ぐには井戸亭を造るべし。釣瓶は種々あれども何れも不潔なる手にて持つ時は水を汚すべし。故に喞筒にて汲み上るを最もよしとす。井戸の掃除は必ず一年に一二度行ふべし。是れ不潔物を去るのみならず、滲入水等の有無を撿するに必要なり。

淨水法　淨水法は種々あれども普通濾水法を用ゐる。水道の濾水裝置の如く池深く砂多く徐々に濾せば全効を收め得べしと雖、普通家用の裝置は深さ五尺位の桶の底に厚さ三寸許小石を布き、其上に又三寸許砂礫を並べ、其上に清淨なる細砂二尺許を置き、其上に清き毛布及び木炭獸炭等を入れ、又其上に少許の小礫を入れ之に水を入れて濾すなり。即ち僅に三尺に過ぎざる場處を濾過せしむるなれば、時間に於て經濟なれども黴菌の如き細微なるものまで悉く除去すると能はず。此法について注意すべきは、永く使用する時は黴菌其他水垢等附着して、木炭及び砂等の間隙を閉塞し、其中を通過せしめざるに至るのみならず、其中を通過する水は汚れて惡性のものとなるとなり。故に度々其砂と器とを洗濯せざるべからず。次は沸騰法なり。此法は黴菌を煮殺し石灰を沈澱すれども、炭酸瓦斯を飛散せしむるの損あり、且つ高價なる新炭と勞力とを要す。次は清澄法なり。之は礬土鹽類等を含有せる水を清淨にする法にて、吾五升五合の水に明礬一匁の割合に入れて振盪すれば、明礬と混合鹽類とは糾合して沈澱す。

水の貯藏　水を貯ふるには水瓶を用ゐ塵の落ちざる樣蓋をなし日光の直接に照さざる處に置くべし。然れども貯水は衞生上害あるを以て成るべく毎度井戸より新く汲みて用ゐるべし。

## ◎家計收支の實況

東京　會員某報知

つたなき身を以て皆樣方の御中間入り致候も御耻かしき次第ながら御報申上て御批評を願度比較的多額の收入ありても其割合に支出も多く殘る處は僅に相成さても主婦の意氣地なきをあらはす樣にて御耻かしき極みに御座候

一家族十人　主人、主婦、子供二人(四歳一歳)書生三人、乳母一人、下女二人　外に兩親あれとも不動産ありて別居し當方よりは小遣ひを送るのみなり

一收入金四百拾圓　一ケ月分

内　金四百圓　俸給

金拾圓　預金利子

一支出金參百貳拾七圓八拾貳錢　一ケ月分

内譯

| | |
|---|---|
| 金四拾圓 | 兩親へ |
| 金貳拾圓 | 小供學資 積立金 |
| 金拾五圓 | 主人小遣 |
| 金貳拾五圓 | 被服費 |
| 金貳拾圓 | 醫藥料 |
| 金參圓四拾五錢 | 生命保險料 |
| 金五圓五拾錢 | 電話使用料 |
| 金貳圓五拾錢 | 諸稅 |
| 金五圓 | 家屋手入 |
| 金五圓八拾錢 | 植木手入 |
| 金四拾錢 | 人力車稅 |
| 金四圓五拾五錢 | 新聞雜誌 |
| 金拾五圓 | 主人辨當代 |
| 金拾五圓 | 交際費 |
| 金貳拾圓 | 米代 |
| 金五圓八拾錢 | 牛肉 |
| 金七圓參拾錢 | 魚代 |
| 金七圓五拾錢 | 菁物類 |
| 金壹圓九拾錢 | 醬油月割 |
| 金壹圓五拾錢 | 味噌 |

| | |
|---|---|
| 金九拾錢 | 豆腐油揚 |
| 金壹圓貳錢 | 食パン |
| 金壹圓五拾錢 | 砂糖 |
| 金七拾五錢 | 洗濯代 |
| 金參圓五拾錢 | 玉子代 |
| 金九圓六拾錢 | 薪炭酒等 |
| 金七圓五拾錢 | 西洋食料品類 |
| 金壹圓貳拾錢 | 生花 |
| 金貳拾五圓 | 雜費、但し主婦小供小遣、其他郵紙、切手代、菓子代 |
| 金貳拾五圓 | 車夫給金 |
| 金參圓四拾五錢 | 車代 |
| 金六圓五拾錢 | 乳母給金小遣 |
| 金六圓 | 下女二人給金 |
| 金六圓貳拾錢 | 書生三人月謝 |
| 金壹圓參拾錢 | 慈善費 |
| 金七圓貳拾錢 | 牛乳代 |

殘金八拾貳圓拾八錢

右の内家賃なきは自宅に住する故なり主人は酒煙草は一切不用只客用として求むるなり醫藥、被服、交際費は毎月悉く支拂ふにあらず時によりては不足する事もなきにあらざれども大概は殘餘ありて次月に繰越す書生は食料と月謝は當方にて出し家事を手傳はしむ

評　多額の收入ある家計にては、少くも收入の三分の一は剩餘金となさゞるべからず。此家計の殘金八拾貳圓許に學資積立金を合するも、尚收入の四分の一に過ぎず。被服、醫藥、交際費に平生殘餘ありて、假りに中額にて濟むとして漸く三分の一に達すべし、克己忍耐の勇を鼓し、今一段の大奮發を以て家政に當られんと切に希望する所なり。

## ◎西洋料理の調理方

(一)ビフテーキ

牛肉を二寸斗り厚み二三分の平切にし、其兩面へ食鹽をふりおき、燒鍋にバタをいれてこれを沸し、其中へ玉葱人參など細かにしたるをいれてかき廻し、少し色變りたる頃肉をいれていく度もかへして燒て用ふべし。

(二)カツレツ

牛肉を二寸斗り厚み三分程の平切にし、其兩面へ食鹽をふりまた米利堅粉をつけて新聞紙の上にてよくおさへ、鷄卵を割りてよくかきたて肉にぬりつけ、其上へ又パン粉をつけて牛油にてあげてよし。

あしらひは、馬鈴薯の食鹽煮してつぶしたる杯用ゐるもよし。

鷄肉を大きく切り、前の如くして牛油にて揚たるは一等上の物にして、風味よき物なり。すべて鳥獸の何にても此如くして用ゐてよし。

(三)ロース

牛肉を大切の儘食鹽をふりかけ、其上へ胡椒の粉をふりてブリキの盆にのせ、蒸燒して後よき程に切りて用ふ。

鷄の羽をとり腹を出し、其中へ(パン)(唐リンゴ)(日本の飯)など詰めこみ、よくかき合せ、糸にて結び食鹽をふりて、前の如く蒸燒して後よき程に切りて用ふ。

但し蒸燒する時間は肉の切樣の大小、鳥の大小によりて多少の差あることはいふ迄もなきことなれど、先づ三十分より二十分位と心得てよし。又火の加減にも心すべき事にこそ。

鴫の羽をさり腹を出し、前の鷄の如くして燒くもよし、此外何鳥何獸もすべて蒸燒は前の如くしてよし。

あしらひはパンを三角などに切り、牛油にてあげたるを皿に敷きて、其上へ鳥肉をのせ、相當の妻を添へ、ソースをかけて用ふべし。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 愛國婦人會記事

◉評議員會　本月及び來月中の評議員會日割は左の如し。

十月廿八日（第四水曜日）第二の組
十一月四日（第一水曜日）第三の組
十一月十一日（第二水曜日）第四の組
十一月十八日（第三水曜日）第五の組
十一月廿五日（第四水曜日）第一の組

◉評議員會の景況　本月七日第四の組評議員會出席者は濱尾作子高木鉞子山脇房子關郁子中山幸子の諸夫人。同十四日の第五の組評議員會には山內禎子佐藤猶子中山幸子の各評議員にして、神奈川縣支部大會の件其他本會擴張上につき評議せられたり。

◉東京府幹事會の景況　本月十五日本部樓上に於て開會したる東京府幹事會に於ける協議の要領は支部會員の名簿整理、幹事交代の件及び幹事は隔月毎に集會して支部擴張を謀る事等なりき。當日出席者は廿六名の多數なりしが、千家男爵寄贈の茶菓の饗應を受け午後五時頃散會せり。

◎熊本支部の景況　同支部の例會は本月十二日當日午後一時より赤十字社熊本支部內に於て開會。當日の出席者は男子には江木知事河內山縣屬等にして、會員は江木幹事長飯田副幹事長及び幹事以下八十餘名にして、最初江木幹事長の挨拶次に江木知事の談話次に阿蘇郡錦野村東新次郎氏の功勞に對し總裁殿下より下賜せられたる有功章を幹事長より本人に授與し、夫より例會に移り、濟田一等軍醫正の衛生上の演說、西村德量師の「誠の道」の演說ありて午後四時散會せり。尚同支部にては此程事務章程を規定し、郡役所內に事務所を設くる等十五ヶ條を發表せり。又十月十五日の現會員は二千六百一人に達せりと云ふ。

◉神奈川縣支部大會　同支部は會員二千餘人に達したるを以て、今春既に大會を開く計畫ありて其詳細の豫報は本紙にもかゝげたりしが偶ま橫濱市に惡疫流行の兆ありしを以て遂に今日まで延期したり。由つて此度橫濱市を避け、來る十一月八日（日曜日）午後二時より橘樹郡川崎大師河原平間寺に於て開會することに決定し　總裁閑院宮妃殿下も御臨場あらせられ、會長理事評議員方も參會せらるゝ豫定なり。

◉麻布區講談會　本會麻布區幹事の催しにて、同區內の會員方及び其家族のため通俗講談會を開く事となり、來る廿七日午後一時より赤阪檜町赤阪俱樂部に於て開會、文學士下田次郎氏の講演及び餘興には三曲合奏琵琶活花盆景等の催しあるよし、定めて盛會なるべし。

◉有功章贈與　本會に對し特に功勞ありたる左の人々に對し　總裁殿下より有功章を贈與せられたり。

七寶金色製二等有功章　神奈川縣知事　周布公平
同　東京府知事男爵　千家尊福
同　石川縣支部幹事長　村上須磨子
同　富山縣支部幹事長　季家貢實子

◉愛國婦人刀　在大阪の本會特別會員前川竹代氏は奧村刀自の演說に感じ今回左の書面を添へて愛國婦人刀と稱する短劍を總裁殿下に奉り、尚ほ會長及び奧村刀自にも各一口を贈られたるが、其實物を見るに長さ九寸許表に靑字にて「愛國婦人刀」と記し、裏面に朱字にて「大日本帝國」の文字を顯はし白鞘に納め鹽瀨の袋に包み頗る美事なるものなり。尚ほ總裁殿下へは會長の手を經て之を傳獻したり。

秋冷の候貴會益々御盛榮奉賀候、自分儀かれて奧村刀自の演說を拜聽し、大に感ずる所これあり、此後一朝事あらん日に、婦女の身といへども、心あるものは兵士の後に從ひ、其分に應じて、務を盡さんには、身を守るべきもの丶大必要なるを思ひ、何か有益なるものをと、種々工夫を凝し居り候、折から月々御發行の「愛國婦人」新聞中に御記載の、村上、下田、高島、小笠原諸先生方の、御論旨を拜讀するごとに、いよ／＼感に堪へかねて。此度愛國婦人刀を考へ付き、刀劍三口、貴會まで差送り候につき、それ／＼獻上の手續、御手數煩はし度云々、

## ◎奧村刀自石川富山支部遊說日誌（承前）

八月十三日　午前八時金石出發、金澤を經て大聖寺驛に着す。幹事松島鄕子、黑田よはい子柳川龜菊、桑原わき子、江沼郡書記等の出迎あり、一同車を連ねて江沼郡鹽屋村に至る、全村會員の出迎を受け、大谷派西榮寺に到着。午後二時三十分より仝寺本堂に於て開演す、松島郡長紹介の勞を取らる、聽衆約七百餘名、即時入會者七十五名あり、本日特に盡力されしは松島郡長夫婦、井に鹽原村助役福原男氏、及び西榮寺住職等なり。尙同夜再び本堂に於て講話する事となり、住職藤川顯映氏の贊成演說あり、つゝいて刀自の演說あり、入會者拾數名ありたり。當村は僅に三百戶のみの地なるに、殆ど百名の入會者を得たるは大に一行の滿足せる所なり。

同十四日　午前九時出發、大聖寺驛より汽車にて零時三十分小松驛に着、かまやに投宿。即日幹事方の訪問を受け、沼崎郡長も訪問せらる。其報告によれば能美郡現時の會員三百廿七名に達せりと云ふ。

同十五日　午前八時小松町出發、能美郡高田村に向ふ。沼崎、富樫、山口、纐谷、柳谷、の各幹事、伊藤、丸谷、兩郡書記同行せられ、仝町大谷派蓮光寺に於て、午前九時より開演す。沼崎郡長始め近村の村長數名出席、万端盡力せられ、傍聽人約三百餘名、即時入會者約五十名あり。閉會後午後より仝郡安宅町に至る、幹事郡書記等一同出迎はれ、仝村に至る途上米谷響香氏（幹事貴族院議員妻）及び令孃井に有志夫人出迎あり。會場大谷派勝念寺に至り、仝寺本堂に於て開會、傍聽者約七百名、即時入會廿名あり、閉會後米谷幹事宅にて茶菓の饗應を受く。

同十六日　午前七時出發、多數の幹事方小舞子驛迄見送あり、午前八時三十分金澤着。午後一時より村上幹事長の案內にて、天德院に於て講話す、聽衆約三百餘名、閉會に先ち同院佛敎婦人會の彌募にかゝる唱歌の合奏あり、即時入會者二三十名。尙ほ同院主押野大壽氏は、同院婦人會會員百餘名の入會を纏めて、後より送るべき旨約せられたり。

同十七日　本日は大谷派光專寺に於て、高安副幹事長始め、富士澤幹事等の盡力にて、午後三時より開會。西山覺流氏は刀自と韓國に於て別懇の間柄につき一場の勸誘演說を爲せり。聽衆約四百名、即時入會者四十名あり。閉會後村上同縣知事歸縣の報知に接し、同邸を訪問。暫時談話の上引取りたり。

同十八日　午前中村上知事始め、村上幹事長永田警部長夫人、牧野參事官夫人等の訪問あり。午後二時より金澤市泉寺町法華宗妙立寺に於て開演す。聽衆約六百名、仝寺住職勸田孝山師紹介の勞を取らる、即時入會者約四十名あり。本日も會場は一切男子の取扱に任さす、幹事方に於て受持たれ、前日以來婦人の盡力少なからざりき。閉會後西山覺流氏方にて晚餐の饗應を受く。

同十九日　午前大降雨にて落雷あり、午後に至り霽る。午後二時より會場大谷廟所に至り開演、松山智雲師の紹介、井に女史の履歷について演說あり、次て刀自三時間餘の演說を爲す。當日は金澤市最終の演說なるにより、傍聽人も非常に多く、入場を謝絕せられたるもの少からず。聽衆は約千名、即時入會者百名あり。會場整理は例の通り、幹事方に於て一切取扱はれ、職員總出の有樣にて、大島評議員、村上幹事長、高安副幹事長、長男爵母堂、始め幹事不殘、陸軍將校夫人數十名、支部分區事務員不殘盡力されたるは、深く謝する處なり。石川縣は本日までにて、約二千人の會員を得たる旨の報告に接したり。

同二十日　本日午前中は、今回盡力されたる重なる有志者の宅を訪うて謝辭を述ぶ、午後五時より村上知事の招待にて、金澤市兼六公園內三芳庵に於て鄭重なる晚餐の饗應を受けたり。出席者は村上幹事長、高安、增永兩副幹事長、佐藤事務員等なりき。

同二十一日　午前八時金澤市出發。村上縣知事、增永書記官、牧野參事官、高安醫學校長、小川市助役、住職、事務員（以上男子）大島、本多兩評議員、村上幹事長、高安、增永兩副幹事長、長男爵母堂、須永參謀長夫人、始め各將校夫人、市長渡瀨氏令孃、警部長夫人、各幹事方併せて五十餘名停車場まで見送られ、午前十一時七尾鐵道に乘り數濱驛に着す。夫れより腕車にて石川縣羽咋郡志雄村に到り、仝村醫師馬島氏方に投宿す。栗山同郡長幹事飯貝協子氏等態々本村に出張盡力せられ、村長安達祐雄氏役場員を指揮し必死に盡力せられたり。午後二時大谷派專勝寺に開會す、聽衆約八百名、即時入會者十四名ありたり。（次頁へ續く）

## 愛讀者の君方に願ひまつる

奧村首唱者の遊說に依て各地に會員方增加致候に就ては從來本紙を御愛讀下され候方々より新會員の方々へ本紙購讀の儀御勸め下され此の機關紙に由り愛國婦人會の主意ます／＼貫徹致候樣御盡力を仰ぎたく願ひ奉り候

本紙代金の儀東京市內だけは集金人を差出し候へども各地へは此の便宜を得ず候に付發行部數の多きにも拘らず印刷費不足致し困居候御面倒ながら代金滯りなき樣御送附下されたく懇請の至りに候代價は本紙第一面に揭げ候通りにて郵便切手代用にてもよろしく候

大日本女學會內
愛國婦人發行所

## 本會會員現在數表（六月三十日現在）

| 支部名 | 特別會員 | 通常會員 | 計 | 支部名 | 特別會員 | 通常會員 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 二三二 | 七二八 | 九六〇 | 山形 | 五〇 | 一八〇 | 二三〇 |
| 東京 | △二、八五一 | △三、〇八〇 | △五、九三一 | 秋田 | 六〇 | 二〇五 | 二六五 |
| 大阪 | 四四三 | 一、六四四 | 二、〇八七 | 福井 | 三三 | 一〇 | 四三 |
| 京都 | 三九七 | 一、六三五 | 二、〇三二 | 石川 | 四六 | 一〇四 | 一五〇 |
| 神奈川 | 六四〇 | 二、四〇〇 | 三、〇四〇 | 富山 | 三四 | 一六六 | 二〇〇 |
| 兵庫 | 二三五 | 一、八五七 | 二、〇九二 | 鳥取 | 八三 | 五四一 | 六二四 |
| 長崎 | 一〇三 | 三四二 | 四四五 | 島根 | 八〇 | 一三三 | 二一三 |
| 新潟 | △三五九 | △一、〇〇一 | △一、三六〇 | 岡山 | 一四四 | 九七九 | 一、一二三 |
| 埼玉 | 一六一 | 一、一九九 | 一、三六〇 | 廣島 | 二五八 | 九六五 | 一、二二三 |
| 群馬 | 四〇 | 一七七 | 二一七 | 山口 | 五二 | 八三 | 一三五 |
| 千葉 | 四六 | 六四 | 一一〇 | 和歌山 | △二九 | △一〇六 | △一三五 |
| 茨城 | 二九 | 七五 | 一〇四 | 德島 | 一八 | 一四五 | 一六三 |
| 栃木 | △六九 | △四〇九 | △四七八 | 香川 | 一四八 | 一、〇五一 | 一、一九九 |
| 奈良 | 二一五 | 五八八 | 八〇三 | 愛媛 | △二九 | △四〇六 | △四三五 |
| 三重 | 二三一 | 二九五 | 五二六 | 高知 | 五〇 | 三三一 | 三八一 |
| 愛知 | 一九八 | 一、三三五 | 一、五三三 | 福岡 | 四七〇 | 一、〇四五 | 一、五一五 |
| 靜岡 | 五〇 | 二〇三 | 二五三 | 大分 | 六一 | 一七〇 | 二三一 |
| 山梨 | 四八 | 一九四 | 二四二 | 佐賀 | △四九 | △二一四 | △二六三 |
| 滋賀 | 五三 | 二四四 | 二九七 | 熊本 | 四四四 | 一、二四八 | 一、六九二 |
| 岐阜 | △五六 | △一七一 | △二二七 | 宮崎 | 三三 | 二三四 | 二六七 |
| 長野 | 八三 | 六三五 | 七一八 | 鹿兒島 | 一三〇 | 五七九 | 七〇九 |
| 宮城 | 一三〇 | 五一〇 | 六四〇 | 沖繩 | | | |
| 福島 | 五〇 | 一二七 | 一七七 | 臺灣 | 一 | | 一 |
| 岩手 | 一三四 | 五六八 | 七〇二 | 海外 | 八 | 二 | 一〇 |
| 青森 | 二〇 | 八八 | 一〇八 | 合計 | 七、八三九 | 二六、六六〇 | 三四、四九九 |

備考　△印ハ本年六月末日調報告未着ニ付本年五月末日調ノ人員ヲ揭ク



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## ◎奥村刀自石川富山支部遊説日誌（前頁の續）

同　二十二日　午前十時志雄村出發、鹿島郡能登部村に到り同村長樂寺本堂に於て開演す。來聽者約六百餘名、即時若干の入會者あり。本日は同寺に慈善宿泊を受く、明日より富山支部に向けて出發の筈なり。

同　廿三日　午前出發越中の國伏木港に向ふ、石川支部事務員佐藤鋼他郎氏は、富山支部迄仝行せらる。氏は石川支部に出張以來四十餘日間終始同行せられ、万般の事務を敏捷に處理せられたるは、一行の深く感謝する處なり。汽車の石動驛に着するや、富山支部事務員山內貞七氏幹事長代理として、一行を案內の爲め出張出迎ばれたり、高岡を經て射水郡伏木港に着す。伏木停車場には町長岡本普喬氏、並に伏木婦人淑友會長桂木氏、伏木小學校同窓會幹事長谷川氏等、無慮數十名出迎あり、仝町高砂亭に投宿す。午後二時なり伏木尋常高等小學校樓上に於て開演す、野村校長紹介の勞を取らる、聽衆約三百名、即時廿餘名入會す。

同　廿四日　伏木發、停車場まで前日仝樣雨中にも拘はらず、數十名の見送人あり。高岡市に於て佐藤石川支部事務員と別袂せり。小松驛に下車、婦負郡八尾町に至る、町長の出迎を受け、仝町絲山久平氏方に投宿す。午後二時より本派聞名寺本堂に於て開會す。本日は仝町の婦人協會員の招きにより、演說せるものにて、傍聽者非常に多く、約千六百餘名、即時入會者廿六名、贊成員四十名あり、特に仝協會幹事方の依賴により、夜分仝寺に於て再び講話す。聽衆二千餘名、入會者若干名ありたり。

同　廿五日　八尾町出發、富山市を經て四方町に至る。午後三時より四方町長福寺に於て開會す。傍聽人約五百名、即時入會者拾餘名ありたり。

同　廿六日　午前七時出發、富山市を經て中新川郡五百石町に至る。仝町長酒井小平氏方にて慈善宿泊を受け、午後三時より本派信了寺に於て開演す。聽衆約六百名、即時入會者若干名ありたり。

同　廿七日　午前七時出發、魚津町にて下新川郡役所に立寄り、天野郡長に面會の後、仝郡三日市に着す。仝町長平川順吾氏方に慈善宿泊を受け、午後三時より同町尋常高等小學校に於て開演す。聽衆約六百名即時入會者數十名ありたり。閉會後町立圖書館を一覽す。地方に於て、町立としてかくの如き公共的設備あるは、喜ばしき事にて、一入町長の盡力を感じ入れり。

同　廿九日　午前七時より仝町大谷派錬法寺に於て開演す、傍聽人約二千餘名。午前十時閉會、直に出發す、數十名の見送りあり。正午仝郡柏町に着し、松永旅館に投宿す。午後三時より仝町曹洞宗松林寺に於て開演す、傍聽人約千五百名、即時入會拾餘名あり。同町長長岡與左衛門氏は、町內を自ら勸誘され、熱心に盡力せられたり。

同　三十日　午前出發、仝郡魚津町に着す。仝町東京樓に宿泊。午後三時より仝町曹洞宗常泉寺に於て開演す。小野女教員紹介の勞をとられ、傍聽人約千七百名、即時入會者三十名あり。本日は富山支部巡回中最も多くの婦人來會せられ、來聽者の三分の二は婦人なり、是れは當地の魚津婦人會の人々熱心盡力の結果による。會後同會にて茶話會の催しあるにより出席を求められしも、氣の毒の情に堪ずして之を辭退し、夜間常泉寺に於て又一席講話を試む。入會者數十名あり、會後魚津婦人會より、鄭重なる饗應を受く。

同　卅一日　午前魚津町出發、同十一時中新川郡滑川町に着し、仝町加積館に投宿す。午後三時より仝町高等小學校に於て開演、傍聽人約五百餘名、即日入會者三十五名あり。

九月一日　午前八時出發、仝郡上市町に着、仝町小森次七郎氏方に慈善宿泊を受く。午後一時より常福寺に於て開演す、石川惠來師紹介の勞を取らる、傍聽人約二千名、即時三十名の入會ありたり。

同　二日　午前出發、射水郡小杉町に到り、仝町大谷派久證寺に於て開會す。傍聽人約八百名、即時入會者若干名ありたり。閉會後富山市に向ふ、當分同地西派別院に滯在することゝなれり。幹事長の訪問を受く。

同　三日　午前中知事を訪問し、廣貫堂の製藥工場を一覽す。午後二時より西別院本堂に於て開演す。幹事長李家實子氏は開會の趣旨及紹介の勞を取らる。傍聽者は縣の高等官夫人を始め、市の重なる夫人にして、約千五百名、即時入會者百餘名ありたり、

同　四日　午後二時より富山市大谷派別院に於て開會す、李家幹事長開會の趣旨を述べ、刀自を紹介せらる、次に刀自講演す、本日は九十三度以上の炎暑にも拘はらず、傍聽人約貳千三百餘名、即時入會者百數十名あり。支部職員は總出にて盡力せられ、非常に盛況なりき。

同　五日　午前七時より富山市本派別院に於て、同派婦人協會員の希望により一席の講話をなす、閉會後、李家知事は公用のため出張につき、別袖の挨拶の爲め來訪ありたり、午前九時出發高岡市に向ふ、富山停車場まで副幹事長以下四十餘名見送を受く。高岡驛に着後堀市長邸に宿泊する事となり、李家幹事長等も當市まで出張盡力せられ、午後三時より同市商業會議所樓上に於て開演す。堀市長の紹介、李家幹事長開會趣意を述へ、後ち刀自講演す、傍聽人約千餘名、即時入會者九拾七名ありたり。

同　六日　本日午後二時より高岡市商業會議所に於て開會聽衆約八百五十餘名、即時入會廿七名あり。高岡婦人會員、佛教婦人協會員等熱心盡力の勞を取らる、特に堀市長は一行の宿泊を自宅に引受けられ、市內に二回まて開會するの手營を採られたるは、一行の深く感謝する所なり。

同　七日　午前堀市長邸出發、西礪波郡戸出町に到る、仝町吉田仁平氏邸にて、一同鄭重なる午飯の饗應を受け、午後一時より仝町東派正樂寺に於て開演。傍聽人約七百名、即時若干の入會者あり。閉會後再び吉田仁平氏宅に休憩す、其時恰も東礪郡長箕元氏、井に同夫人等出迎として當町まで出張せらるゝに遇ひ、即日出町に至り、中越銀行取締役根尾宗四郎氏宅に宿泊す。

同　八日　午前中有志の訪問を受け、午後二時より出町尋常高等小學校に於て開演す。箕浦郡長紹介の勞を執らる、傍聽人約千百名、即時入會者五十名あり。閉會後城端町に大岡町長邸に宿泊鄭重なる取扱を受く。

同　九日　午前九時より城端別院に於て開演す。傍聽人約六百名、即時入會者若干名。閉會後西礪波郡福光町に至る、町長廣岡光氏、並に小學校教員は生徒數百名を引率して、停車場まで出迎らる。師官石黒俊聖氏邸に投宿す。

同　十日　午前十一時より、福光小學校に於て職員生徒の爲め一席の演說を爲す。午後一時三十分より、本派別院に於て開演傍聽人約二千餘名、即時百名入會者ありたり、

同　十一日　福光町發、西礪波郡石動町に向ふ。石動驛停車場に於ては、有志家催しに係る、歡迎の烟火數十發を打上げ、百餘名の出迎あり。一行は仝町道林寺(住職石川舜台師)に到着す。午後一時より開演、傍聽人約二千名、即時入會者百名餘ありたり。

同　十二日　本日、新入會者の爲に一場の講話をなせり。

同　十三日　午前八時石動町發、石川縣支部內金石町に向ふ。停車場迄有志者三十餘名見送りあり。汽車の金澤驛に着するや、村上幹事長以下の出迎あり、夫れより、馬車にて金石町に到着。仝町大谷派專長寺に於て開演す。傍聽人約八百名、即時入會拾八名あり。此地に於て再び開會せし理由は、前回當町に演說せし際傍聽せし女生徒は大に感動し、自後着物、下駄等は自己の好むものを望まさるにより、贊成員になりたしとて各々、其母親に請求したるに母親共は、自ら其演說を聞かさりしを遺憾に思ひ、時に再開を請求したるか爲にて、前後合せて、百餘名の入會者を得たり。

同　十四日　金澤驛發、歸京の途に向ふ、停車場迄村上幹事長以下の見送りあり。幹事長は特に小松驛まで見送られ、事務員を縣界大聖寺まで遣はされたり。同夜十時靜岡驛大東館に宿泊す

同　十五日　午前七時靜岡發、午後二時新橋着。岩倉會長代理、島津理事代理、清浦、松平、高木、山脇、濱尾、中山、佐藤、片山の各評議員諸氏の迎ひを受けたり。

## 雜報

◉大日本女學會晩餐會　同會第三回後期第四回前期兩學期共今月を以て講習終了を告げ、八千人の會員通信教授に依つて、めでたく業を卒へたるに付き、其祝意を表せんため、去にし十二日午後四時より、上野公園精養軒に、同會の贊成員講師を招待して、晩餐會を開きたり。當日折からの霖雨にも拘らず、定刻より馬車人車相つゝきて、貴婦人名士方の來會あり、同會職員玄關にて來賓を迎へ、休憩室に案內す。休憩室には同會に御下賜を蒙りし　皇后陛下御歌軸物　皇太子妃殿下御歌額面を始めとし、同會各學期終了の際たまはりたる、小松宮頼子殿下の令旨　皇太子殿下御成婚の際同會より獻上したる歌卷物の副本等種々貴重品を陳列して來賓の展覽に供したり。やがて樓上なる食堂に移り座定るや、同會副總裁鍋島侯爵夫人は一同に向はれ、諸氏の高庇により本會益々盛運に赴き、女學校に入學すると能はさる事情を有する多數の女子に、通信教授にて高等教育の修養を積ましめたるは、國家の爲に喜ばしき事にぞある。今日聊か祝意を表せん爲に、且つは諸氏の勞を慰めん爲に、諸氏を招待せり、此上ながら將來益々本會の爲に盡されんことを願ふ旨挨拶あり次て山澤理事長より會況を報告し、宴はてゝ、再び休憩室に移り、室內にてフラシライト寫しにて夜中撮影し、八時過ぎ一同散會せられたり。當日の來會者は鍋島侯爵夫人松浦伯爵等貴婦人名士四拾名許なりきといふ。

◉修身教會設立の計畫　哲學館々主文學博士井上圓了氏は外國漫遊を終へ此程歸朝されたるが、歐洲に於て學校外の道德敎化の盛んなるを實見し、學校卒業以後の人を導くには、必す別に一種の設備を要すると想到し、今般修身教會といふものを設立せんとを企て其方法として先づ適當の場所に修身教會堂を設け、老若男女を集め、敎育勅語に基き忠孝を本として忍耐勤勉儉約誠實等、百般の職業に必要なる道德を訓諭し、進んでは家庭の風儀社會の習慣をも一新する目的なりと云ふ。

◉帝國教育會の通俗講談會　學校以外の敎育上の設備は、吾邦に於て甚だ缺乏し居り、芝居寄席等も其方法を誤り居るを以て、社會教育の具に供するに足らず娛樂的に修身上の敎化を一般に普及せしむるには、他に適當なる方法をとらざるべからざるとは夙に敎育社會の問題となり居る處あるが今回帝國敎育會の發起にて東京市內に通俗講談會を開き、平易に且つ娛樂的に修身談をなし、以て社會敎育に稗益する所あらんとをつとむるとぞ。

◉大日本女子敎育會　同會設立の事については、別項下田文學士の談話にて詳かなるが、要するに女子敎育家の團結を謀るが目的にして、主幹に下田文學士、幹事に井口安井兩女史以下十餘人、各地に支部を設け、其活動の手始めとして、明治書院より「女子敎育」と云ふ雜誌を發行するよしなり。

◉東洋女學校の設立　文學博士村上専精氏等は、今回東洋女學校を設立し、程度は高等女學校の科程となし、漸次設備の整頓するを俟ちて大學部を開設する計畫にて、その趣旨を發表したるが、其主旨の要は、日本人の多數の家庭が、佛敎的なるにより、これに依りて德化を施さんとするにありて、贊成者には、大隈伯渡邊子爵井上兩文學博士及び佛敎界の名士實業家等ありて、之を助くる由にて、資金は凡そ十五万の豫算を以て全國に募集するよし。

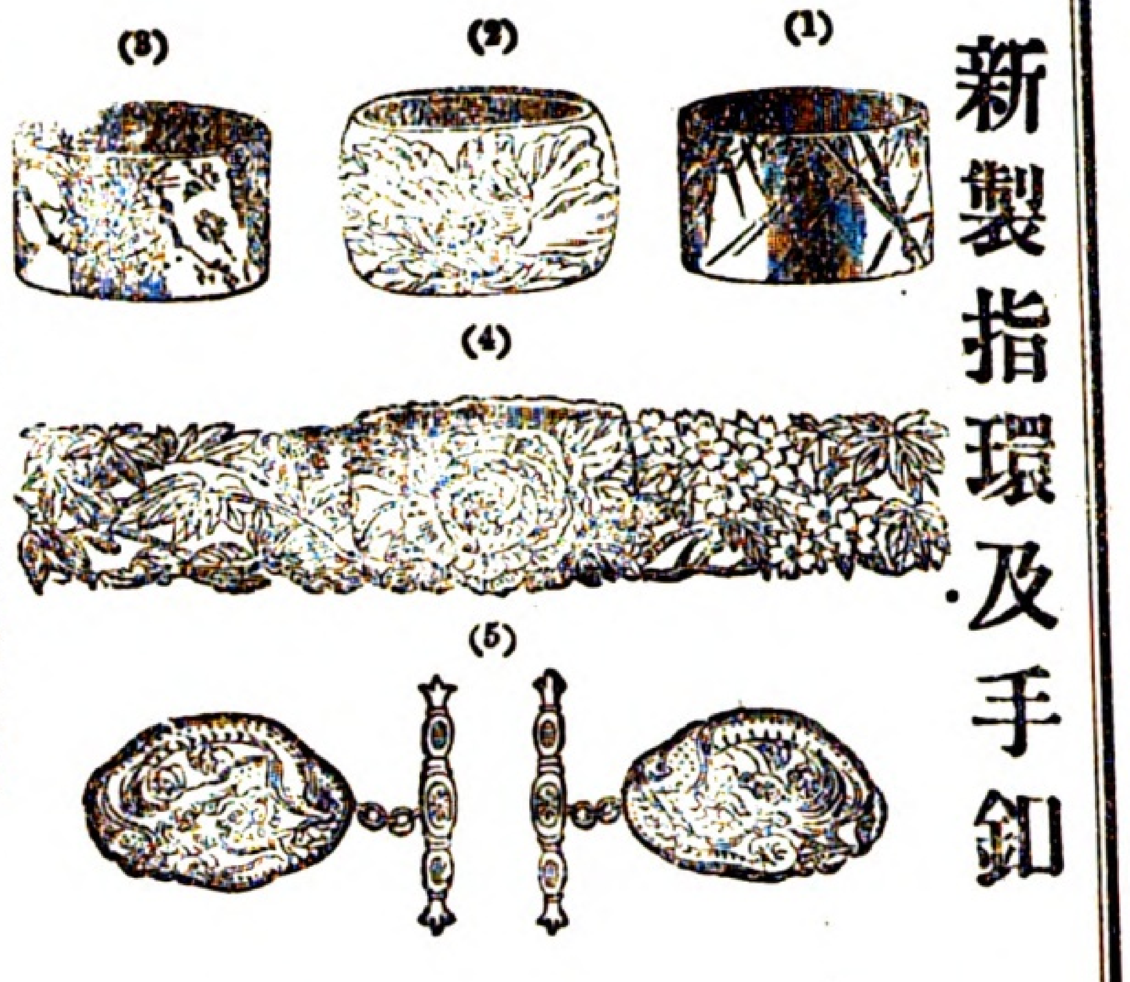
◉日本女子大學校　同校にては此程秋季運動會を開き、左の順序の遊技運動を催したり。

第一　雙轉々
第二　毬體操
第三　白妙
第四　繃帶競爭
第五　くらぶ體操
第六　風船競爭
第七　綱引
第八　御給仕
第九　啞鈴體操
第十　操毬競走
第十一　案山子競爭
第十二　にんふ
第十三　輪投競爭
第十四　長宿列張
第十五　啞鈴體操
第十六　容儀體操
第十七　自轉車
第十八　綱引
第十九　長竿體操
第二十　御手球
第廿一　旋旗踊々
第廿二　球竿體操
第廿三　徒競法
第廿四　輕量體操
第廿五　第二虹霓舞
第廿六　障害物競走
第廿七　あまぞん
第廿八　且暮鈴
第廿九　花實り
第三十　自轉車
第卅一　ばすけっと、ほー
第卅二　圓舞



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 新製指環及手釦



(1) 價廿一圓八拾錢……廿二金三匁付片切刻
(2) 價廿七圓八拾錢……同　高刻
(3) 價二拾圓八拾錢……同　片切刻
(4) 價五拾六圓五拾錢……同四匁付……高刻
(5) 價廿二圓九拾錢……十八金三匁付高刻

東京市京橋區尾張町貳丁目拾六、七、八、九、番地
時計寶玉類貴金屬美術品及銃砲火藥商 **天賞堂**
電話新橋 特三三三 三一五三

天賞堂出張所々在地
●東京市神田小川町●横濱市●名古屋市●大阪市●廣島市●熊本市●長崎市●小樽市

## 半ゑり帶揚類

卒先嶄新意匠特に價直低廉

○ショール縮緬　刺繍　絞り摸樣（帶揚袋織絹縮
○半ゑりは山繭格子百合縮緬其他○新縞メ式部メ
○七五三御祝用絞り摸樣よごき地○別織染形下緋メ
○見女方用守巾着○涎かけ○金具附帶止美人ひも
○前掛地鹽瀬無双染京御召其外○紋附高祖頭巾地
褒賞受領　新橋すゞめ形○ゑり治形　まげ入　製造元
顏肌美白高等洗粉　チヱリー　發賣元本舖
新橋竹川町十二番地　**ゑり治**　園田商店
新橋電話新二〇二七

東京高等師範學校教授　松本孝次郎先生著
家庭教育叢書第一編
## 家庭教育
全一冊美製本定價金五十錢郵税六錢

兒童心理の原理を基礎として平易に家庭教育上必要なる事項を講述せられたるものにして女子必讀の良著なり

發行所　東京日本橋區本石町三丁目廿三　**金昌堂**
神田小川町一　**金昌堂支店**

## 袴乃親玉

本店 卸部　東京日本橋區長谷川町貳番地　**美濃磯本店**
電話浪花二八五九　電略ミイリ

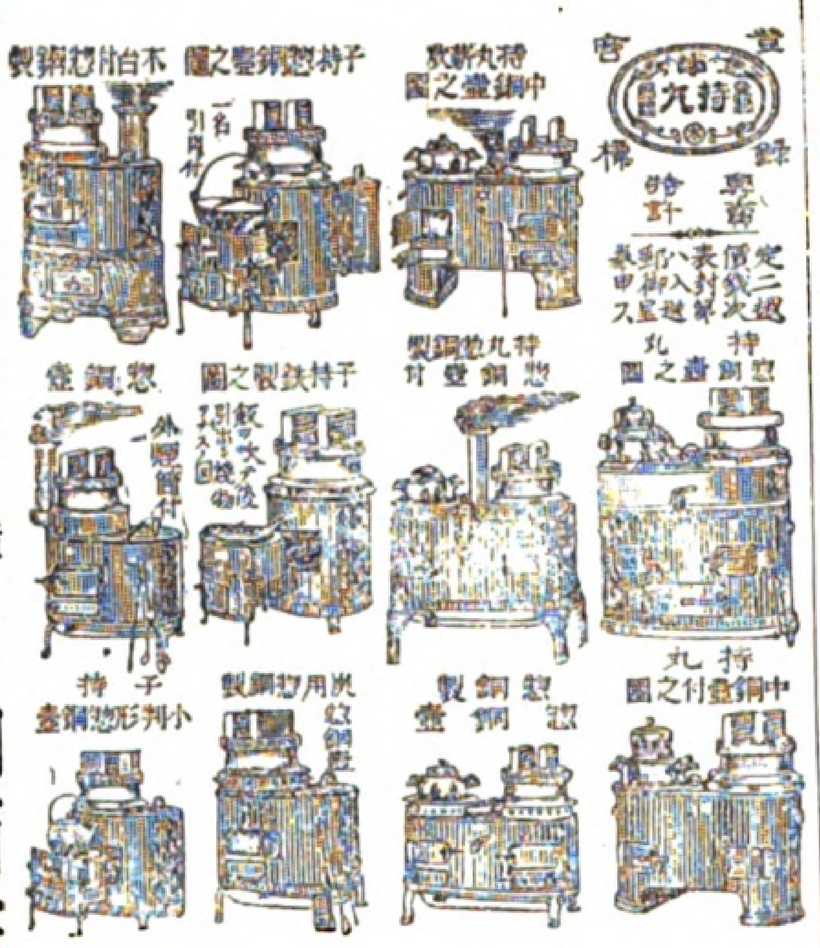
小賣部
本郷區本郷五丁目十五　電話下谷二四一五　**美濃磯本郷支店**
淺草諏訪町廿貳　**美濃磯淺草支店**
（美）芝區新櫻田町九番地　**小田商店**
（内）牛込神樂坂町二丁目八　**伊澤商店**
（内）四ツ谷傳馬町一丁目　**伊澤支店**

●冬物新荷到着●婦人洋服地並小間物御袴地類數十種

羅紗帽子、造花、飾羽根、手袋（皮絹毛メリ類）沓下、シャツ、ヅロース、毛皮及羽根製襟巻、マフ、ウールショール、レース入ハンカチーフ、リボン、レース、コールセット、バクロ、ブラシ、ヤフランネル等其外種々
英佛國最新流行品を選み直輸仕候間多少共御用奉願上候御好に應じ裁縫編物一式調進仕候

東京市麹町二丁目七番地　**八木屋號　大國市藏**　電話番町七百四十二

## 専賣特許竈



製造發賣元　日本橋區蠣殻町二丁目（電話浪花壹壹七七番）　**名和商店**
神田區松永町十八 和泉橋通　**名和支店**

英國スウエル女史原著（ブラック、ビユーテイ）
高等師範學校教授　本田増次郎譯
## 驪語（黒馬物語り）
製本優美クロス綴金文字極彩色畫入　金八拾錢郵税六錢

總ふりがな附　歐米諸國の家庭の寶典として最も廣く愛讀せらるゝ讀物にして譯文又平易流暢何人にも容易に讀み得べからしめたり
大阪毎日新聞評〜〜健全なる家庭の讀物として絶好の書なり

中央新聞文學記者　加藤眠柳新著（最新刊）
## 女子立志編
アートタイプ肖像入上製クロス綴美本五拾錢郵税六錢

ふりがなつき　心ある女子が理想の人物とし模範とすべき名媛十有九名を擧げて其言行其徳たるを錄し好著也

堺枯川著
合本 **家庭の新風味**　定價金壹圓 郵税八錢
**家庭夜話**　定價金壹圓 郵税拾五錢
月刊雜誌 **家庭之友**　天長節第八號發行定價五錢郵税五厘一年郵税共六拾錢
一度讀みたらば次號を買はないで居られぬ雜誌也
版元　東京神田區南甲賀町八番地　**内外出版協會**

## 醫院案内

**婦人科産科榊病院**
院長　醫學博士　榊順次郎　毎日午前診察
副院長　醫學士　久保徳太郎　毎日夕刻診察
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

**耳鼻咽喉科院**
院長　ドクトル　**山上兼輔**
四谷區本村町三十七番地　電話番町七三〇（士官學校前）
診療時間　毎日午前八時より十二時迄午後六時より七時迄○日曜大祭日は午後休療往診の需に應ず

**東京小兒科院**
院長　醫學博士　**瀨川昌耆**
駿河臺西紅梅町（電話本局一九五五）

●**水原産科婦人病院**
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院往診随時○同院に私立産婆學校の設あり

**内外科泌尿生殖器科**
醫學博士 佐藤進　醫學士 佐藤佐　同 佐藤恒久　同 佐藤達次郎　醫學博士 田中苗太郎
醫學士 阿久津三郎　醫學士 吉井明七郎　醫局員 菅野徹三　同 前田利雄　同 笠間大作
各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス
毎週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク
（本郷區湯島五丁目お茶ノ水）
**順天堂醫院**　電話本局三六九番




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

國文研究會編纂

# 中等女子作文教本

各冊定價金貳拾參錢

●日用文の部 壹冊
●普通文の部 壹冊

**本書の特色** 師範學校女子部高等女學校生徒用に最も適す●送り假字句讀段落譯文、文體結構の諸法を網羅す●文字、文法、類字同訓文字の正誤を練習し得る●日用文は一の例文毎に必二三の應用文を附し自ら熟語を參照して作り得るヨーにせり●作文に必要なる言葉と言葉の組立とは特に課を設けて教授し得るヨーにせり●普通文に近げ、候を全廢し又言文一致文をも載せたり●多年經驗ある諸先生の編纂なれば教へ易く解し易く教師生徒諸君は共に大に便なるべし

發行所 東京市京橋區南傳馬町二（電話本局二一六三番） 目黑書店

文科大學教授 日本女子大學講師 文學博士 小杉榲邨先生監修

# 美文模範 國語作文

附美文類語一萬餘 和裝美本 紙數三百頁 古代文房具 彩色圖挿入 正價五十錢 郵稅金六錢

本書は小杉博士の監修に成りたる近世並びに現代諸名家の傑作中模範と成べき佳文麗句數萬を選輯し且國文學に志す者の便を謀り卷首に其讀むべき書目を順次に解題を施し猶作者の文章に就て批評し以て後輩に注意を與へられたるなど總て文作る人のために懇切を盡したるは比類を見ず苟も國文を學ばんと欲する者は勿論師範中學及高等女學生諸君の作文資料として座右缺く可からざる最好の文鑑なり

○國史學の栞 小中村博士著 正價五十錢 郵稅六錢

○枕の草紙詳解 全三冊 正價壹圓四十五錢 郵稅十五錢

發行所 東京神田區鍛冶町（電話本局九百四十九） 誠之堂書店 賣捌所各地有名書店中

# 大日本女學會

## 女學講義世評一斑

『時事新報』 女學講義は着實の方針を取り組織甚だ宜しく婦人の自宅教習書として最も適當のものなるべし（中略）華實兼備はりて浮華輕躁の風なく實益を主とする好雜誌なり

『讀賣新聞』 本邦女子教育の甚だ發達せざるは實に慨歎せざるを得ず地方に在ては高等教育を受けんと欲するも就て學ぶ校舍なく爲めに高等小學校卒業後直に學を廢するは遺憾の極と謂ふべし大日本女學會玆に見る所あり此程通信教育の法によりて女學講義を發刊せり女子に必要なる科目を平易明瞭に講述し且つ雜錄には女子の服膺すべき訓戒を載せ其他小說詞藻雜組等ありて高等教育を受けんとする女子の爲めに極めて良好の講義錄なり

『日本』 女學講義（十五卷） 卷頭にかゝげられし三十一文字は畏くも、皇后宮より下し賜ひし大御歌にて正風氏の筆いとうるはしく認めたり、陛下教育御熱心のほどかしこくも尊とし、學科、手藝、詞藻、小說、御伽譚、雜錄、雜報の諸欄よくとゝのひてめでたし、志あるほどの者は入會して共にやまと女の德操を養うて可なり

『都新聞』 女學講義（第一卷）麴町區土手三番町の大日本女學會より發行せるものにて女子の講義錄には高尙にして優美なる雜誌なり同學會は長きあたりの御贊成もあり貴顯の奥方も多く贊成し居らるゝを以て其組織も亦確實なり

『防長實業新聞』 發兌以來江湖の淑女より歡迎されたる女學講義は本號より特に從來の會勢を擴張し誌上に改良を加へたりと云ふ宜なり前號に比して出色あるを先づ卷首の 皇后陛下の御詠「よろひかる玉もなにせん身をてらすふみこそ人のたからなりけれ」難有拜誦せらる其他學科能く整理し居れり滔々たる俗流の中に在りて一頭地を拔く他雜誌の遠く及ばざる所なり

『新大和』 女學講義（十五卷） 開卷劈頭に高崎御歌所長の謹書せる 皇后陛下御下賜の御詠歌を載せ此女學講義が位地あり信用ありて他の紛々たる女學雜誌と異る點を示し居りぬ學科には修身より作文作歌は固より家事經濟栽縫割烹等あり其他幾篇万朶の花をつゞると言はん歟

壽美花おしろい ヴワイヲレット製

定價 大瓶二十錢 小瓶十二錢

定價 大瓶廿五錢 中瓶十五錢 小瓶十錢

西洋色白くなる洗粉 壽美花あらひ粉

定價綠藍紅彩蝶香ひ罐詰六錢五厘ホックス入三錢袋入壹錢

全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候 價格表ハ御報次第呈送ス

日本帝國徽章商會

東京市麴町區飯田町三丁目 電話番町八百五十七番

紳士貴婦人用 高等香油チェリーオイル

定價 大瓶八十五錢 中瓶四十五錢 小瓶二十五錢

日本直輸入元 東京市日本橋區本町二丁目十五番地 高橋初次郎（特電話本局四一二三番）

●全國到る處の小間物化粧品賣藥店に販賣致居候

坪內文學博士校閲

# 通俗世界文學

全部五十冊毎冊正價廿錢●六冊壹圓拾四錢●十二冊貳圓廿貳錢●廿五冊四圓六拾錢●五十冊九圓●郵稅毎冊六錢

發兌元 東京神田裏神保町 冨山房

神田仲猿樂町十七番地九號 塾主 土肥英子

# 帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り（電話新橋八一六番）

本鄕支店 本鄕一丁目
飯倉支店 飯倉四ッ辻
赤坂支店 赤坂表一丁目
四谷支店 四谷大通り
品川支店 南品川一丁目
横濱支店 横濱吉田町

代理店
神樂坂支店 牛込神樂坂
須田町支店 神田須田町
米澤町支店 兩國米澤町
吾妻橋支店 淺草雷門前
田中銀行 日本橋坂本町

●一錢以上何圓にても御預り申し御預り利に取扱申候
●毎月五日迄の御預け金は當月分の利子を付け申候

「愛國婦人」「をんな」並に女學講義廣告取扱

神田區千代田町 博報堂 電話本局一四四番

京橋區尾張町 弘報堂 電話新橋八五一番

京橋區八丁堀中町 一星社

日本橋區上槇町 萬年社 電話本局一一一五

# 衛生酢

●鶴印は色澤濃厚香味醇和
●龜印は香味淡泊酸氣強し

右は本社の特製にして夏期炎熱の候と雖とも腐敗變質の憂なく衞生上有効の良品に有之候

東京市本所區柳島横川町三番地 日本醋酸製造株式會社（電話下谷一四八三番）

東京市內販賣所 同市日本橋區本材木町二丁目十五番地 內田商店（電話本局二一〇六番）

●地方賣捌所御望の方は本社へ直接御照會あれ

正四位勳三等醫學博士 三宅秀先生著（日本女子大學校教科書）

大日本女學會發行

# 家事衛生

總クロース綴ち金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵稅金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五編ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき様懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

●賣捌所 東京神田區一橋通町七 有斐閣

明治三十六年十月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）
發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 大日本女學會內
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十六年十月廿五日發行（毎月十日二十五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

# 愛國婦人第四十號附錄

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

評議員　陸軍少將塚本勝嘉夫人　塚本留子

滋賀縣支部幹事　四郷てる子

評議員　仁杉英夫人　仁杉歌子

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總裁　小松宮頼子殿下
副總裁　鍋嶋侯爵夫人

推戴贊成員
有栖川宮大妃董子殿下
東伏見宮妃周子殿下
華頂宮妃經子殿下
梨本宮妃伊都子殿下
其他贊成員貴婦人一百餘名

# 大日本女學會

新學期を開き何人にても入會を許す

◎本會は女子敎育の普及發達を圖らむ爲に女子必須の諸學科を掲けたる女學の講義錄を發行し種々の障碍の爲に女學校に入學すると能はざる女子に居ながら修養を積ましめ以て一般女子の地位を高めん事を目的とす

◎本會發行の女學講義は畏くも　皇后宮の御覽を辱うし殊に御歌下賜の光榮を擔ふ

◎本會は第一流の名家をすぐりて講義を囑託し其講義有益にして趣味に富めるは既に世の定評ある所にして明治二十八年創立以來已に貳萬五千人の講習修了者を出せり

◎女子素養の程度に應ぜん爲講義錄を高等と簡易との二種に別つ月謝は高等科金四拾錢簡易科金貳拾錢とし入會の節束脩（高等科四拾錢簡易科貳拾錢）を要す

◎女學講義初卷前期は十一月五日に後期は同廿五日に發行す詳細なる會則希望者は端書にて請求あり次第送呈すべし

東京市麴町區下二番町卅七番地　**大日本女學會**
（電話番町千三百三十番）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN